あを越え伊勢街道（初瀬街道）を歩こう

『日本奥地紀行』にみるイザベラ・バードの旅

イザベラ・ルーシー・バードは1831年10月にイングランド北東部ヨークシャーの小さな町で聖職者の家庭に生まれ、22歳から70歳直前まで、南アメリカを除く五大陸におよぶ旅を行い、2冊の写真集を含む多くの旅行記を著しました。明治11年（1878）には、日本の真の姿をとらえるために5月に横浜へ上陸。東京から日光を経て東北を縦断して、北海道まで足をのばしています。

10月18日から始まった関西方面の旅では神戸と京都を中心にまちの様子や日本の文化、宗教に関する記述などが残されています。人力車を使った伊勢神宮への旅は、11月6日に小雨の中、京都を出発し、伏見稲荷から宇治を経て奈良市で宿泊。翌日は一日中奈良市内を見学して夜に桜井市の三輪で宿をとっています。8日の桜井からは初瀬街道をたどり、宇陀市室生元三と伊賀市伊勢路で宿泊して、11月9日の夜に伊勢市山田に着きました。

伊勢では2日間を過ごし、外宮へ参拝した翌日には山田から二見を経て朝熊山へ登り、内宮から間の山を越えて山田へ戻っています。帰路は津から伊勢別街道を経て、関からは東海道を通り鈴鹿峠を越えて11月15日に京都へ帰っています。伊勢からの宿泊地は三重県津市、滋賀県甲賀市土山宿、大津市で、その旅程は11日間で約320Kmに及びます。ここではマップに重なる3日目と4日目と伊勢に着いた5日目の訳文の一部を読んでみましょう。

■11月7日（3日目・雨）　三輪～長谷寺～三本松（鬚無）ぬしや

霧が晴れた［初瀬川の］河谷は幅が狭まり、姿の美しい山々が行く手をさえぎるようになっていたが、突然、本当に得も言われぬ美しい山間の町［初瀬村］が眼前に姿を現した。人口約二千人の町である。［通りの］真ん中の石組みの水路を水が激しく流れ下り、滝のように流れ下る水の音が辺り一面に鳴り響いていた。廂（ひさし）が深く、屋根の勾配がきつく、色合いの暖かな家が通りに続き、その古風な趣は目を楽しませてくれた。家は急峻な山腹にある崖や階段状の所にも建っていた。《中略》

本堂の舞台からの眺めを見ていると去りがたい気持ちになってしまう。そこからは、上へ上へと連なってくるいくつもの堂宇や、激しく流れる山川［初瀬川］の岸に不規則に折り重なるように展開する急勾配の屋根をもつ初瀬の家並み、また、山や森、楓が燃え立つような山腹が一望できるのである。愛宕山という名の変わった形をした尾根に至る急勾配のジグザグ道を上がっていった私たちは、ここから今一度「長谷寺」を見納めた。その時、私はこれまで日本で感じたことがなかったような名残惜しさを覚えた。

■11月8日（4日目・晴れ）　三本松（鬚無）～名張～阿保～伊勢路

《前略》そして、夜明けになるまで無情の雨が降っているかのような音で目を覚ました。しかし、<雨戸>を開けると、そこにはとてもうれしい驚きが待っていた。大きな雲が薔薇色の塊となって晴れていきつつあり、そのあとの空は真っ青だった。山の上には一週間目にしなかった太陽が昇っていき、辺りは陽光に包まれて刻一刻と色の深みを増していたからである。ぬしやというその宿は美しい木津川［正しくは宇陀川］の急崖の上にあり、縁側からは鋭く曲がる川を見下ろせた。川は灰色の高い崖の下を陽光を浴びて輝き、崖には真っ赤に紅葉した蔓草が垂れていた。《中略》あらゆるものが、陽光に輝く雨露を浴びており、まるで秋の美を表す一幅の絵画だった。しかし、千年前のいくつもの短歌には、到来する冬をみつめる日本の農民の恐怖心が詠まれており、宿の女将は、私たちが風景の美しさを絶賛すると身を震わせ、もう六週間もすればこの美しい村も世界から閉ざされてしまうのです、と言った。

■11月9日（5日目・晴れ）　伊勢路～（青山峠）～垣内～六軒～松阪～伊勢山田

《前略》耿々（こうこう）たる月光の下、浅くて幅の広い川に着いた。宮川という名のこの川では渡船を待って長らく足止めをくったが、いやではなかった。木の茂った暗い両岸の土手、灯を点した無数の釣り舟、首に提灯をぶら下げながら冷たい水に腰まで浸かって釣りをする多数の我慢強そうな漁師からなる風景は実に美しく、絵のようだった。［櫛田川からは］寺院や神社、<鳥居>、仏像が道に沿って次々と現れた。また、大木の茂る聖なる社［鎮守の森］もいくつもあり、木には藁縄が帯のように巻かれ、その縄［注連縄］には房のようなものが垂れ下がっていた。また、ほとんどの家の玄関の上には神道の象徴［門飾り］が飾ってあった。私たち［の乗った人力車］は残りの行程を突っ走り、山田に到着した。ここは古代信仰揺籃の地である。月光の下でも堅牢で立派に見えたから、陽光の下でならいっそう堅牢で立派に見えるにちがいないと思われた。どの家も二階建で、ほとんどは堅牢な蔵造りで、切妻の妻を通りに向けており［妻入り］、屋根にはどっしりとした瓦が葺かれ、壁の下部の石葺は整って美しいからである。すばらしい楠と杉の杜や、両側を石で縁取った外宮への参道とその入口の堂々たる佇まいは別としても、この山田ほど美しく立派な町を日本で目にしたことはこれまでなかった。

雨中の旅となった3日目は初瀬からの道中の記述は少なく、紅葉や刈り取られた稲を観ながらいくつかの峠を越えたとしか記されていません。天候が回復した4日目は名張で宇陀川の護岸用の石がいっぱい詰め込まれた大きな竹籠「蛇籠」に目を留め、森の中にあった榾木（ほだぎ）の列を見て椎茸栽培について詳しく書き留めています。5日目の夕方に六軒にたどり着き、新たに車夫を雇い夜道を山田へと急いでいます。

京都に戻ったバードは次のようにこの旅を振り返っています。

■11月16日　京都

私たちは昨日［十五日］の午前中に京都に着いた。外国の女性二人か、一部を除けばヨーロッパ人の女性などめったに見かけないような地域を、一人の従者も付けないで二〇〇マイル［三二〇キロ］近くにも及ぶ旅ができ、ただの一度も、強奪にも無礼な仕打ちにも不快な目にもあわなかったのは、この地域の治安がいかによく平和であり、外国人がそれを享受できるかの証になる。私たちはそんな目にあわなかったどころか、至る所で丁重で親切なもてなしを受けたのだった。

初瀬街道を歩くには、併走する近鉄大阪線と山田線を利用すると7回程度の日帰りで伊勢まで歩き継ぐことができます。モデルコースを参考に体力や気象条件を考慮して街道歩きをお楽しみください。

モデルコース（初瀬街道から離れる駅は□枠を外したり、一部省略をしています）

1日目　桜井駅 ― 大和朝倉 ― 長谷寺 ― 榛原駅 ― 室生口大野 ― 三本松
- ＊長谷寺で昼休みをとってゆっくり歩けるコースです。
- ＊長谷寺へ立寄らなければ榛原駅から室生口大野駅までは約2時間30分

2日目　榛原駅 ― 室生口大野 ― 三本松 ― 赤目口 ― 名張駅 ― 桔梗ヶ丘 ― 美旗
- ＊三本松の道の駅で昼食をとるため早めに出発してください
- ＊県境を越えてからは「みえの歴史街道」等のマップをご覧ください
- ＊名張～美旗の間は2コースに分かれます。室生口大野からなら美旗まで歩けます

3日目　名張駅 ― 桔梗ヶ丘 ― 美旗 ― 伊賀神戸 ― 青山町 ― 伊賀上津駅 ― 西青山
- ＊名張～青山町の間は公衆トイレがありません。コンビニ等をチェックしながら歩きましょう
- ＊2日目に美旗まで歩いたら桔梗ヶ丘駅からスタートして、別ルートを歩きましょう

4日目　伊賀上津駅 ― 西青山 ― 東青山 ― 榊原温泉口 ― 大三駅 ― 井関 ― 川合高岡
- ＊昼食は青山峠を越えて垣内または旧白山町役場あたりでとりましょう
- ＊井関はJR名松線の駅で大三から約2時間。川合高岡まではさらに30分

5日目　大三駅 ― 川合高岡 ― 伊勢中川 ― 伊勢中原 ― 六軒 ― 松ヶ崎駅 ― 松阪
- ＊伊勢中川あたりで昼食の予定。六軒からは伊勢参宮道を歩きます
- ＊松阪まで歩いておくと6日目が楽になります

6日目　松ヶ崎駅 ― 松阪 ― 斎宮 ― 明野 ― 明星 ― 小俣駅 ― 伊勢市
- ＊櫛田川を越えてから昼食。街道沿いにはコンビニ等はありません
- ＊松阪出発なら斎宮で昼食。頑張れば伊勢市駅まで歩けます

7日目　小俣駅 ― 伊勢市 ― 宇治山田 ― 五十鈴川駅
- ＊宮川を渡り神領に入る。外宮からは間の山を越えて内宮へ

発行：風景街道「伊勢街道」連絡協議会　　編集：紀伊半島交流会議 伊勢街道分科会
協力：奈良県・三重県・桜井市・宇陀市・歴史街道推進協議会　　2024.07.24発行
※このページの訳文は平凡社東洋文庫『完訳日本奥地紀行4』金坂清則訳注を利用させていただきました
※このマップはイオングループからの寄附金を活用した「奈良の文化遺産やまちなみの保全事業」補助金を活用して制作しました